

ゆきあかりの会 お知らせ No.16

2007年10月10日



♥ <ゆきあかりの会>にご参加くださった皆様へ ♥

夜が少しずつ長く、そして深まってきましたね！！

残暑が厳しかった9月も終わり、10月に入って、空が一段と高く感じられるようになりました。日が暮れるのも早くなり、夜は本当に涼しさが感じられ、虫の音も聴こえていますね。

“秋の夜長”と言いますが、夜が少しずつ長くなり、その夜の長さが寂しさや悲しみを一段と深めていくような・・・、そんな毎日を皆様は送っていらっしゃるのではないかと思います。

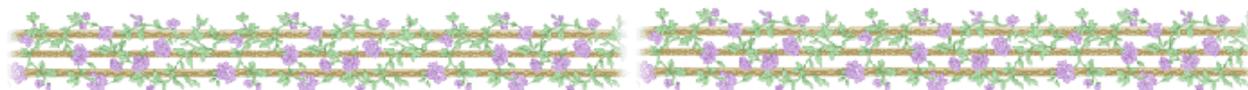
人の温もりも恋しくなってくるのに、愛する人とは二度と会えないし、話もできないし、抱きしめ合うこともできない・・・。

どうか、悲しくてたまらない時、涙が止まらない時は、無理して止めようとしないで、思いっきり涙を流してくださいね。思いっきり泣いてくださいね。

「泣いてはいけない！我慢しなければ！」なんて、誰にも言う権利や資格はありません。

あなたが悲しい、寂しい、つらいと感じられたその時、我慢をしたりしないで、ご自分のお気持ちのままに、どうか、思いっきり泣いて、涙も思いっきり流してくださいね。

愛する人を亡くされたのですから、あなたのその思いはとても自然なことですから！



★今年度の分かち合いの集いの日程です！！

☆第11回ゆきあかりの会

日時：2007年11月11日(日)13:00～16:00(受付12:45～)

☆第12回ゆきあかりの会

日時：2008年1月13日(日)13:00～16:00(受付12:45～)

☆第13回ゆきあかりの会

日時：2008年3月2日(日)13:00～16:00(受付12:45～)

会場：全日程とも、日本福祉大学名古屋キャンパス北館6階6A教室

*会場の日本福祉大学名古屋キャンパスへは、どうかご連絡をなさらないでくださいますようお願い申し上げます。連絡先：近藤浩子の携帯☎ 090-3909-4515

【ご参加のお申し込み方法】

- ① 参加のお申し込みは、それぞれの日程の2日前(金曜日)までに、事務局宛てにお申し込みください。
- ② 参加費はお一人1000円です。当日、会場の受付でお支払いください。



★ラジオ番組《百万粒の涙を流そう》、ただいま放送中！！

《ゆきあかりの会》企画・制作の「グリーンケアラジオ 百万粒の涙を流そう」が、名古屋シティエフエムラジオ局(通称:SHANANA! FM)から、毎週日曜日の夜 19時30分から45分まで放送中です。

グリーンケアラジオ「百万粒の涙を流そう」10月分放送内容の予定(内容は変更の可能性もあります)

放送回数	放送日	＜グリーンケア宅配便＞コーナー	＜グリーンシアター＞コーナー	＜遺族会のお知らせ＞コーナー
No.58	10月7日	「死別の悲しみが引き起こす心の病気について」	絵本「赤いハリネズミ①」 深川明日美・訳	・生と死を考える会ローズマリー ・「なごや自死遺族支援シンポジウム2007」
No.59	14日	「死別の悲しみによる様々な変化の多くは、異常ではないことについて」	絵本「赤いハリネズミ②」 深川明日美・訳	—
No.60	21日	未定	絵本「赤いハリネズミ③」 深川明日美・訳	・「なごや自死遺族支援官民合同シンポジウム2007～自死遺族の思いに耳を傾けて～」
No.61	28日	「名古屋市の2007年度自死遺族支援策について」	絵本「赤いハリネズミ④」 深川明日美・訳	—



★絵本『ずっと つながっているよーこぐまのミシュカのおはなしー』の

作者、入江杏先生が11月の遺族会にご参加なさいます！

絵本『ずっと つながっているよーこぐまのミシュカのおはなしー』の作者である入江杏先生が、11月11日のゆきあかりの会の集いにご参加くださるそうです。

入江杏先生は、2000年12月31日に東京都世田谷区で起きた、一家4人が惨殺された事件の被害者である奥様のお姉さまにあたる方で、絵本作家でもいらっしゃいます。

ペンネームの「入江杏(いりえ・あん)」というお名前は、事件で犠牲となった当時8歳のいなちゃん、当時6歳の礼ちゃんのお名前を、ローマ字で書いて並べ替えたものだそうです。

入江先生は12月23日(日)に、東京の会場でグリーンケアに関しての講演会を行いますので、お知らせ致します。



『ミシュカの森へ～喪失が教えてくれたこと～』

1. 日時 2007年12月23日(日・天皇誕生日) 14時～15時30分(予定)
2. 会場 早稲田大学 井深記念ホール
3. 費用 1,000円
4. 主催 入江杏&ミシュカの森 準備委員会
5. お問い合わせ先 beg_minato@yahoo.co.jp みなと様宛て

★第4回&第5回「生きがい探索講座(通称:やってみよう会)」の

ご案内です！！

♥「第4回やってみよう会」を10月21日(日)午前に行います！

— 『パステルアート体験講座 - 秋バージョン - 』

第4回目は、第3回目『パステルアート体験講座』に引き続き、第2弾として、「パステルアート体験講座-秋バージョン-」を行います。

『パステルアート』というのは、パステルというクレヨンに似た画材を、粉状に細かく削って、コットンや指で画用紙に塗りつけて絵を描いていくものです。

ですから、実際に筆で描くのではないので、「絵が苦手！」という方でも、

100%！！大丈夫です。

今回は、6月に引き続き、『パステルアート』に親しんで頂きたいと思います。

実際に、画用紙に色を何色も混ぜながら塗り重ねて、『パステルアート』の感触を感じて頂いて、その後、1枚、秋をテーマとした絵を皆さんと一緒に描いていきたいと思います。

そして、描き終わった後、皆さんでご自分の思いを込めた作品を鑑賞し合い、楽しくお茶とお菓子で談笑し合いましょう！！

画用紙やパステル等材料は、事務局でご用意いたしますので、身軽でおいでくださいね。

1. 日時 平成19年10月21日(日)10時開始 12時30分終了(受付:9時45分から)
2. 会場 日本福祉大学名古屋キャンパス北館6階6A教室
3. 参加費 お一人4000円(画用紙等材料費込み、茶菓子付き)
4. 持参するもの エプロン(服が汚れるのを防ぐ為)、ゴミ捨て用の紙袋
5. その他 作業を実際に致しますので、あまり綺麗な格好でおいでくださらない方が
良いかも…。でも、めちゃくちゃ汚れてしまうということはありません。
6. 申込期限 準備の都合がありますので、10月19日(金)までに事務局宛てにお申込ください。



♥「第5回やってみよう会」を12月8日(土)午後に、下記のとおり行います！

第5回目は、2月の「第1回やってみよう会」で大好評だった杉野先生に再登場を願い、皆様からのリクエストにお応えして、年賀状シーズンを直前に、「毛筆で年賀状を書こう！講座」を開催します。

第5回生きがい探索講座(通称;やってみよう会)

「杉野了一先生の年賀状を毛筆で書こう！！講座」

1. 日時 平成19年12月8日(土)13:30開始～16:00終了(受付:13時15分～)
2. 会場 日本福祉大学名古屋キャンパス南館5階501教室
(注意) ゆきあかりの会の集いをいつも行っている北館ではなくて、
そのすぐ南隣りのビルの5階です。
3. 会費 お一人1000円(お茶菓子付き)
4. 持ってくるもの 筆(細書き用)(お持ちで無い場合は筆ペンでも可)のみ！
(テキストと墨汁と書道用半紙等他の諸道具は、杉野先生がご用意して下さいます。)
5. お申込み 5日(水曜日)までに、事務局(あるいは近藤浩子)宛にお申し込みください。

*今回の講師の杉野了一さんは、ゆきあかりの会の集いの参加者です。

★「自死遺族支援シンポジウム」のご案内！！

11月4日の日曜日に、名古屋市中区にあります、中区役所ホールにおいて、自死遺族の自助グループである<リメンバー名古屋自死遺族の会>が、名古屋市と共同主催で、

「なごや自死遺族支援官民合同シンポジウム2007～自死遺族の思いに耳を傾けて～」を開催しますので、ご案内いたします。

ゆきあかりの鷹見有紀子と近藤浩子は、二人とも、
<リメンバー名古屋自死遺族の会>の代表幹事でもあります。

今回のシンポジウムでは、鷹見有紀子はプロローグで、自死遺族の思いを綴った詩の朗読を、フルートの生演奏をバックに行う他、第2部のシンポジウムでも当事者代表として参加いたします。

近藤は、なんと(!!)、身分不相応にも…総合司会を担当します…。

ただでさえラジオ番組内で、ろれつ回り滑舌の悪さをさらしているのですが、自分でもとても不安ですが、東海地域で『自死遺族支援』のシンポジウムが開催されるのは、初めてですので、私達二人をはじめ、リメンバー名古屋のスタッフ一同、一生懸命に準備を行っています。

参加費は無料ですし、事前のお申し込みも必要ありません。

どうぞ当日、フラッと足をお運びくだされば嬉しく思います。



- 開催日時：**平成19年11月4日(日) 13時30分～16時40分**
開場 13時～ 開演 13時30分～ 終演 16時40分
- 会場：**中区役所地下ホール** (名古屋市中区、中区役所地下1階、中日ビル東隣り)
- 主催：リメンバー名古屋自死遺族の会 及び 名古屋市
- 内容：

<総合司会> リメンバー名古屋自死遺族の会代表幹事 近藤浩子

プロローグ： 詩「自死した大切なあなたへー自死遺族当事者の思いー」(13時30分～)
…自死遺族が奏でるフルートの生演奏をBGMに、
自死遺族達の思いを綴った詩を、自死遺族が朗読します…

第1部： 自死遺族当事者のお話～自死遺族の思いの語り合い～(13時45分～)
…配偶者を、父親を、子供を、兄弟を亡くした遺族が思いを語り合います…

<休憩>(14時30分～14時45分)

第2部： シンポジウム ～自死遺族支援の取り組みとこれから～(14時45分～)

【シンポジスト】 行政から……………内閣府自殺対策推進室参事官 高橋広幸氏
マスコミから…………… 中日新聞社より
学識経験者……………名古屋大学名誉教授 蔭山英順氏
助成団体より……………日本財団公益担当リーダー 長谷川隆治氏
自死遺族当事者…………リメンバー名古屋自死遺族の会代表幹事 鷹見有紀子氏
【コーディネーター】 ……………リメンバー名古屋自死遺族の会代表幹事 花井幸二氏

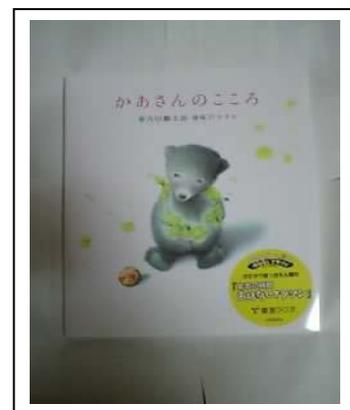


★素敵な絵本のご紹介 No. 13

『かあさんのところ』 内田麟太郎／作 味戸ケイコ／絵 佼成出版社 ￥1,300＋税

幼い頃にお母さんを亡くしたこぐま。
いつも一人ぼっちで、悲しみがいっぱい、悲しみしか知らなかったこぐま。
お母さんの星を探していたけれど、見つからなくて・・・。
そんな“ぼく”にも愛する人がやがてできて、家庭を持って、そして子供も生まれて・・・。

そして時が経ち、“ぼく”はおじさんになっていて・・・。
そうして“ぼく”は初めて、かあさんの「心」を思う。
「幼い僕を残して逝かなければならなかった、かあさんの悲しみ・・・」を。
“ぼく”が気づいた「かあさんのところ」とは・・・。



愛する人に先立たれて遺された人の悲しみ、先に愛する人を遺して逝かなければならなかった人の悲しみ・・・。

そのどちらもが、とても優しく温かな絵と、短いけれど心に響く言葉と共に、私の心に迫ってきました。
「先に逝った人は、遺された自分に何を望むのだろう？」という視点から描かれた絵本です。
ともかく、絵が本当に優しくて癒されます。色遣いもパステル調で・・・。
もし書店で見つけれたら、一度手に取ってみてくださいね！

《ゆきあかりの会》では、皆さんから、〈お知らせ〉に載せたいニュースや、亡くなった愛する人への思いを綴った作品等の投稿も随時募集しています。

この『お知らせ』の配布先は、ゆきあかりの会の集いにご参加くださったご遺族の皆さんです。
また、《ゆきあかりの会》のホームページでも掲載しています。



★「さくら」の歌の高野健一さんが名古屋でライブ！！

何度か、この「お知らせ」にも出てきましたが、「さくら」という、愛犬を突然に亡くした“僕”の悲しみを表現した歌を歌って、ゆきあかりの会ではおなじみの、高野健一さんが今月15日(月曜日)の夜、名古屋でライブを行います。

「さくら」の大ファンの、ゆきあかりの会の二人(鷹見と近藤ですね♥)は、チケットを購入して、勿論、ライブに出かけます！

「さくら」という歌を運転中にFMラジオから聴いて、涙があふれて、運転が危なくなった日以来、私はすっかりこの歌の大ファンとなり、CD(右の写真)まで買いました。

私自身の体験や思いと重なり、歌詞の一つ一つに心から共感できました。
もし15日の夜、ご都合が合いましたら、聴きに行かれませんか？



日時	平成19年10月15日(月)	開場	18:30	開演	19:00
会場	名古屋E. L. L. (名古屋市中区大須、地下鉄鶴舞線「大須観音」駅下車、徒歩1分)				
料金	3000円(自由席、税込、ドリンク別)				
問合せ先	サンデーフォークプロモーション (☎052-320-9100)				



ゆきあかりの会のホームページのアドレスが変更になりました

ゆきあかりの会のホームページのアドレスが、下記のように変更になりましたので、皆様にお知らせいたします。

変更前はブログ形式だったのですが、変更後は、いわゆるホームページ形式になりましたので、見やすく、読みやすい形になっています。

ぜひ一度ご覧になってみてくださいね！！

【変更前】 <http://yukiakarino.blog87.fc2.com>

【変更後】 <http://www.will.obi.ne.jp/yukiakari/>

<グリーンケアラジオ 百万粒の涙を流そう>の放送が、今月中に60回目を迎えます。放送しながらいつも思っているのですが、それは『言葉』の難しさです。

自分の発した「言葉」が、そのまま聴き手の方に、自分の意味することと同じ意味として伝わるかどうかは、全くわかりません。

これは放送だけでなく、日常の生活においても、臨床心理士としての私の仕事の空間においても、まったく同じことが言えます。

私が「怖いなあ」と思っているのは、話し手自身が善意の気持ちから、正義感から発した言葉が、聴き手にとっては傷つけられたり、追い詰められてしまうことです。

悲しみから立ち直れない方に向かって、「早く元気にならないと・・・。」とか、必死に頑張って笑顔を作って外に出ると、「元気そうで良かったわ！」と声をかけられたり・・・。

あるいは、特にこれは私のような専門職が言いがちなのですが、「死を受け入れる」、「障害を受け入れる」等の『受容する』という言葉です。「受け入れる」ことは、一生かかってもできるかどうか・・・だと思うのです。ましてや、他者に言われるような言葉でもありませんよね。

きっと皆さんも、日常生活の中で、とてもしんどい思いを体験し、更に、苦しい思いを重ねていらっしゃると思います。

愛する人を亡くした悲しみやつらさを、他者が「受け入れる」という言葉で表現したり、求めることは、人間として、専門職として、私はどうしても受け入れられません。他者が口にする言葉では無いと思っています。

「自分はどうしても受け入れられない」とご自分を責めたり、苦しんでいらっしゃる方がおいでになったら、どうぞ、「受け入れられなくて当たり前なんだ」と、ご自分をいたわって差し上げてくださいね。

「受け入れるー受け入れられない」は、まさに一生の問題だと私は思っています・・・。



大切な人を亡くした方の集い<ゆきあかりの会>代表 近藤浩子

<ゆきあかりの会 事務局>

代表 近藤浩子(臨床心理士)

☎ 090-3909-4515

FAX 020-4669-4206

e-mail yukiakarinoikai@yahoo.co.jp

* <ゆきあかりの会>ホームページ <http://www.will.obi.ne.jp/yukiakari/>

<グリーンケアラジオ百万粒の涙を流そう>ブログ <http://tears100.blog88.fc2.com/>